

健診時の尿検体を用いた推定摂取食塩量測定の意義 福島県保健衛生協会 穴戸幹夫

健診時の尿検体を用いた推定摂取食塩量測定
の意義

○ 穴戸幹夫 渡辺 伸 菅野恵子

5 菅野千恵美 岡崎幸雄 及川秀誠

束原世紀 柴田真一

公益財団法人福島県保健衛生協会

10 【はじめに】

生活習慣病予防のため「日本人の食事摂取基準 2010 年版」では、成人における食塩摂取量を男性 9.0g/日未満、女性 7.5g/日未満とする目標値を設定している。塩分のとり過ぎは高
15 血圧の大きな要因であり、減塩対策は高血圧予防にとって重要である。今回、高血圧予防対策事業としての食塩摂取量調査に協力する機会を得たので報告する。

【対象と方法】

20 対象は、平成 25 年 6 月から 10 月の 5 か月間

に実施した事業所従業員 1,178 人と特定健診受診者 2,293 人とした。

推定摂取食塩量の算出は日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会による 24 時間尿 Cr 排泄量推計値を含む計算式により求め、採尿の条件は早朝尿または随時尿とした。

目標基準値は男性 8.9g/日以下、女性 7.4g/日以下とし、「少し多い」レベルは目標基準値上限に 3.0g/日を加えた範囲とし、それより上を「かなり多い」レベルとして評価した。

【結 果】

推定摂取食塩量についての男女別分布は正規分布を示しており、同等であった。年齢階級別の平均値をみると、男性は 50 歳代、女性は 60 歳代まで上昇傾向を示しており、判定内訳では、目標基準値内が平均で男性 40.9 %、女性 15.6 %であった。

BMI との関連では、男女とも「かなり多い」の割合が標準以上と肥満で高率であり、低体

重では低率であった。

特定健診における「かなり多い」の割合は、血圧判定では男女とも要医療と通院中で高率であり、糖尿病判定では男性の要医療と通院中で、女性も通院中で高率であった。メタボ判定では、予備群と基準該当で高率、非該当で低率であった。特定保健指導の階層化では、男性は動機づけで、女性は動機づけと積極的支援で高率であった。肝機能検査では、男性の要医療と通院中、女性の通院中が高率であった。脂質検査と腎機能検査では、異常所見に対する増加傾向は認められなかった。

【 考 察 】

今回の健診受診者では、食塩摂取量の目標値である男性 9.0g/日未満は 35.2 %、女性 7.5g/日未満にあつては 12.6 %であり、過剰摂取者の割合が大きいことが推測された。また、女性の推定摂取食塩量が男性と同等であった理由を検討し、これを減塩指導に結びつける必

要があると考えた。

本検査を特定健診や事業所健診に取り入れることで、身体所見、血圧測定、尿検査、血液検査等の結果との関連を把握することができ、これを同時に実施することにより受診者の過度の負担をなくし、経年的推移を捉えながら減塩に対する動機づけに繋げることができると考える。